新コミ大賞作、堂々登場。この才能、宝物。

キーンコーンカーンコーン

みーんみんみん

よぉ今野！
乗っけて！

キキッ

えー？
何ソレ？
鈴木くん。

おれサ、今朝
幽体離脱したよ。

はぁ!?

日常に潜む、
ファンタジー！
新人読切30P。

猫夏

審査員から**絶賛**の声を集めた、第75回新人コミック大賞［**大賞**］受賞作。

ようこそ。一緒に、ひと夏の**不思議な体験**をしよう。ホロリ、**読切30P**。

——"すがわら りょうきん"…です！

ブーン

ゆうべは五回も金縛りにあったたんだよね。

はじめは怖くて抵抗したんだけど、

そのうちだんだん慣れて来てサ(笑)

しまいにはもう飽きちゃって、

そしたら、

フワッ

このまま死ぬのかな。

そのとき猫窓が、

なんかいろいろ流したけど、
とりあえず猫窓って何？
よんで字のごとく、
猫の玄関のことだよ。
ウチの猫の首輪には磁石の鍵がついていて、
P
他所の猫は入れないようになってんだ。
鈴木くんちの猫って、
ミュウスケくんと、
ノンキチくんと、
フーコちゃん、
だっけ？
うん。
F
N
M
実は最近、
ノンが十日も帰ってないんだ。
え？
F
N
M

おととし
こっち越して来て
すぐのころ、
ミュウが四・五日
留守にすることは
あったんだ。
まぁ普通の
雄猫にとっては
珍しいことでは
ないんだけどサ。
ノンはもともと
そういうタイプ
でもなくて——
最近ミュウは
毎晩出かけるんだ。
昨日もそうだった。
シャー
アイツ捜しに
行ってんの
かなぁ？
そっかー
心配だね。
シャー
——て？
幽体離脱は？
どうなったの？

うん。

目が覚めたら、

ぐ〜。

おれが寝てた！

すぐにわかった！

えー!?

おれの魂、

戻るところを間違えた！

そっか〜

シャ

おつかれ！

スィー

違うんだ。
嘘じゃないんだ。
どうせ夢でも
見たんでしょ！
だいたいなんて
あたしが
前なのよ！
降りてよ
もう！
………
!
大事な話なんだ。
フザけてないよ。
確かめたいことがある。
今野じゃなくちゃ
ダメなんだ。
な、何よ急に。
じゃあ乗れば。
ん。
わっ！
サンキュ。

つまり、
鈴木くんはフーコちゃんに憑依したのね？
そう！
ヴーン。
フーコになってすぐにおれは外に出た。
P
パタン。
わぁぁ！
地面がヒンヤリしてる。

そのときかすかに
なつかしくて切ない
匂いがした。
キンモクセイみたいな
季節の感傷的な風。

こっちだ。

あ、ミュウだ。

変だな、
ミュウの匂いじゃなかったのに。

ワン!

ダン!
ドン!!
ピョン!

ワン!?
ワン!?
ドキドキ

死ぬかと思った。
ワン!
ワン!!

うっせーバーカ。
フーコちゃん?
ワン!
ワン!!

!?

こんばんは、

お散歩？

フガフガ
ちょん
ピクッ
たまらん!
ずずず
ゴロゴロゴロゴロ
フーコちゃんがうらやましい。
こんど交代してみない？
コンコン
ちひろ〜入るわよ〜
あ、ちょっと待った！
ごめんね、ウチのママアレルギーなの。
またね。
ちょん
アンェリーがさわいでたけど大丈夫？
うん。
それで——

おれはその人の部屋を出た。
なぁ、
今野、
昨日……
来たよ。
え？
つぶ！
どうしよう
キスしちゃった。

P
ガコン!
プシュッ
な!
嘘じゃなかったろ?
んー、でも必要条件ってところかな。

?
私は最初から鈴木くんが嘘をついてるとは思ってないよ。
でも本当に憑依したって証明するにはまだ十分とは言えないわ。偶然そういう夢を見ただけかもしれないじゃない?

ズビビビビ。

カコーン
よしっ!

乗れよ!残りはおれがこぐ!
そんかしちょっと寄り道すんぜ!

今野んちを出て
おれは例の匂いを追った。

おいなりさんの林を抜けて
化石山を登ると、

フギャー!!
ミュウの声だ!
もう一匹!
オスの声!
パチッ!!
すごい!
匂いが!
どんどん濃くなる!

ミュウ！
相手は―
オッドアイ―

オッドアイ？
誰それ？
この辺りの
ボス猫さ。

体がデカくて
真っ白で、
黄
青
左右の目の
色が違うんだ。

ミュウはむかしこいつにやられて
顔がパンパンに
腫れあがったことがあって、
どうしたの？
ミュウ!?
……
それ以来あんまり
夜のパトロールに
出かけなくなったんだ。

何それ
ピンチ
じゃん！
うん！
ぐぐっ
ぴょん！

ぽちゃん
ピッ
ピッ
ピッ
パッ
フワッ
フワッ
タッ
タッ

やっつけた、というより
追い払った
ミュウは
追いかけなかった
ミュウのほうが
たくさん毛が落ちていた

ああ そうか、
この匂いは——
ミュウは君を、
守ったのか。

アォウ!!
アォウ!!
おれは走って家に帰った。

チュン
チュン
ノン……
……
ノンキチー
ガバ
あ、ミュウ、無事か？
ぐー
バターン

うおおおお!
ノンは首輪をしてなかった。あれじゃ、
帰りたくても中に入れない!
れ?
結局――
今朝はたどり着けなかった。猫と同じ道をたどるなんて無理だったんだ。
ノンの奴、すんごいやせてた。それで首輪がはずれちゃったのかもしれな―
ストップ!
?
こっちだよ。
?
あなたの寄り道したいとこ。
25

そうだよ！
ここ、ここ！

すげぇな
今野！

ここいらの子供は
みんな知ってるよ。

いた?

ぽん。

あ〜あ、

あたしじゃなきゃダメってそういう意味か。

ここね、
空と地面の境界が
ぜんぶ森なんだよ。

プラネタリウムみたいでしょ？
よく来るのか？
たまに。
ここに来ればいつかノンに会えるかな？
んーまぁ、
必要条件ってところかな。

いかがでしたでしょうか？ 流星の如く現れた才能——…次回作をお楽しみに！

たとえ二度と会えなくても、どこかで元気に生きていて欲しいと思う。

あれ以来ブーコに憑依はしていない。今野の言う通り本当に夢だったのかもしれない。

だとしてもそういう夢を見たことは事実だし、そもそも憑依するということはそういうことだとおれは思う。

異議あり！

[猫夏] —完—